

## V 学校給食の指導

学校給食は学習指導要領において特別活動の学級活動に位置付けられており、小学校及び中学校の「学習指導要領解説―特別活動編」において、給食の時間における指導は、標準時数に含まれないものの、教育課程上の学級活動として指導計画に基づいて行われる極めて重要な学校教育活動であり、給食の時間の設定に当たっては、ゆとりをもって食事ができ、十分な指導ができるよう時間の確保に努めなければならないとされている。

### 1 給食の時間における食に関する指導

#### (1) 給食の時間における食に関する指導の基本

食に関する指導の成果は、一度の実践で得られるものではなく、少しずつ時間をかけながら繰り返し行うことで、指導内容の理解が深まり習慣化されるものである。したがって、給食の時間において日々繰り返される食に関する指導は極めて重要である。

給食の時間には、義務教育の9年間を通して、計画的、継続的に食に関する指導を行うとともに、学級の仲間や教師と和やかで楽しい会食をするなど、学校生活の中で、緊張から解放され、気分転換を図ったり、午後に向けての活力を生みだしたりすることもできる。教職員は一緒に楽しく食事をするを通して、児童生徒に対する理解を深めることはもとより、学級全体の好ましい人間関係を育てる上でも、積極的に児童生徒の食事のグループに入り、指導の充実に努めることが大切である。

なお、給食の時間における食に関する指導は、次の3点が揚げられる。

- ① 給食指導
- ② 献立を通して、食品の産地や栄養的な特徴等を学習させる。
- ③ 教科等で学習したことを、学校給食を通して確認させる。

この3点のうち①給食指導は、給食の準備から後片付けまでの一連の指導の中で、正しい手洗い、配膳の方法、食器の並べ方、はしの持ち方(使い方)、食事のマナーなどを習得させるものであり、毎日の給食の時間に学級担任が行う食に関する指導であり、保健指導、安全指導とともに、児童生徒が生涯にわたり楽しく明るい生活を営むための基礎づくりをめざす体育・健康に関する指導として重視されなければならないとされている。

②、③は、学校給食を食に関する指導の教材として活用する際の2つの視点であり、献立作成においては、指導の教材としてのねらいを明確にする必要がある。

#### (2) 給食の時間における食に関する指導の特質

給食の時間における指導は、給食の準備、会食、後片付けなどの一連の指導を、実際の活動を通して繰り返して行うという特長がある。また、献立の工夫により、「食事」という体験を通して、教科等で得た知識を具体的に確認したり深めたりすることで、学習効果を高めることができる。準備から、会食、後片付けまでの一連の指導が、45分～50分程度あり、年間にすると約190単位時間となる。意図的・計画的に進めることで、教育的効果が得られる。給食の時間は、以下に示した内容を十分に踏まえて指導することが大切である。

ア 実践活動を通じた具体的な指導を行う。

給食に使用されている食品に含まれる栄養素や、料理の由来や献立について、実際に食事をするとという実践活動を通しての指導ができる。

イ 習慣化を図る。

年間190回程度実施されている給食の時間に、繰り返し指導を行うことにより、望ましい食事のとり方の習慣化を図ることができる。

ウ 教科等の学習内容と関連を図る。

生活科や総合的な学習の時間に栽培した食品の給食への活用や、教科等の学習内容と関連付けた献立について食に関する指導を実施することができる。

## 2 給食の時間における食に関する指導の内容

小学校における指導の内容は、楽しく会食すること、健康によい食事のとり方、給食時の清潔、食事環境の整備、自然への恩恵などへの感謝、食文化、食料事情などであり、中学校における指導の内容は、楽しく会食すること、栄養の偏りのない食事のとり方、食中毒の予防にかかわる衛生管理の在り方、共同作業を通して奉仕や協力・協調の精神を養うこと、自然の恩恵などへの感謝、食文化、食料事情などである。

### 【食に関する指導の内容例】

指導内容	具体的な指導の内容
1 楽しく会食 すること	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 食事のマナーを身に付け、楽しく会食をする。<ul style="list-style-type: none"><li>・食器やはしの持ち方、並べ方、食事の姿勢など、基本的なマナーを習得し、楽しい雰囲気の中で会食できるようにすること。</li></ul></li><li>○ さまざまな人々との会食を通して人間関係を深める。<ul style="list-style-type: none"><li>・学校給食の場合は、社会の一員としての自覚を高めるための社交の場であり、児童生徒相互、児童生徒と教職員、親子、地域の人々などとの楽しい会食を通して、相手を思いやるなど豊かな人間関係を育てること。</li><li>・食事の場にふさわしい会話を通して、楽しい会食を工夫すること。</li></ul></li></ul>
2 健康によい 食事のとり 方	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 食品の種類や働き、栄養のバランスのとれた食事のとり方が分かる。<ul style="list-style-type: none"><li>・食品の種類や名前が分かり、食べ物に興味関心をもつこと。</li><li>・料理の名前が分かり、健康のためには食事が大切であること。</li><li>・食品に含まれる栄養素により3つのグループに分けられることや五大栄養素と食品の体内での働きが分かり、栄養のバランスを考えた食事ができること。</li><li>・食品に含まれる栄養素の種類と働きを知り、身体の発達に伴い必要な栄養や栄養素の量を理解すること。 (中学校)</li></ul></li><li>○ 日常の食事の大切さが分かり健康によい食事の仕方を身に付ける。<ul style="list-style-type: none"><li>・偏った食べ方をせず、バランスよく食べることやよくかんで食べることの大切さを理解すること。 (低学年)</li><li>・食事と運動・休養等との関連を考え、自分の健康を考えた食事をとること。 (中学年)</li><li>・自分の将来の健康を考え、望ましい食習慣や生活習慣を身に付けること。 (高学年・中学校)</li></ul></li></ul>

<p>3 食事と安全 ・衛生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全・衛生（手洗い等）に留意した食事の準備や後片付けができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身支度や手洗い等、食事の準備や後片付けがきちんと清潔にできること。</li> </ul> </li> <li>○ 協力した運搬や配膳が安全にできる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年は高学年の協力を得ながら、高学年や中学校では委員会活動等を通して、互いに協力し合うこと。</li> <li>・クラス全員が協力し、食事の準備や後片付けができること。</li> <li>・当番や係の仕事に責任をもち、自主的に活動することができること。</li> </ul> </li> </ul>
<p>4 食事環境の 整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食事にふさわしい環境を整え、ゆとりある落ち着いた雰囲気ですることができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく和やかな食事の場づくりや、楽しく、ゆったりとした食事ができるように工夫すること。</li> </ul> </li> <li>○ 適切な食器具を利用して、献立にふさわしい盛り付けができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立にふさわしい衛生的な盛り付けができること。</li> <li>・適切な食器具を利用して、食文化の理解やよりよい食習慣を身に付けること。</li> </ul> </li> <li>○ 環境や資源に配慮すること。</li> </ul>
<p>5 食事と文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 郷土食、行事食を通して食文化について関心を深める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節や行事にちなんだ料理があることを知る。 (低学年)</li> <li>・伝統的な日本の食文化である稲作、米食について理解するとともに和食の食べ方を身に付ける。 (中学年)</li> <li>・特産物を理解し、日常の食事と関連付けて考えることや、食文化について理解を深めることができる。 (高学年)</li> <li>・食文化や歴史と自分の食生活との関連を考えることができる。 (中学校)</li> </ul> </li> <li>○ 地場産物を通して、地域の食料の生産、流通、消費について理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる地域で収穫できる食べ物に関心をもち、 (低学年)</li> <li>・地域の産物に関心をもち、日常の食事と関連付けて考える。 (中学年)</li> <li>・地域の食文化や食料の生産、流通、消費などについて理解を深める。 (高学年・中学校)</li> </ul> </li> </ul>
<p>6 勤労と感謝</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みんなで協力して自主的に活動する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自主的な態度で食事の準備や後片付けがきちんとできること。</li> <li>・責任をもって当番や係の活動ができること。</li> </ul> </li> <li>○ 感謝の気持ちをもって食べることができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事ができるまでの過程を知り、感謝することができること。</li> <li>・自然の恵みや勤労の大切さを知り、感謝することができること。</li> <li>・「いただきます」「ごちそうさま」等の意味を知り、感謝の気持ちを込めてあいさつができること。</li> </ul> </li> </ul>

【給食の時間における食に関する指導と学校給食・食に関する指導の目標との関連】

給食の時間における食に関する指導の内容		楽しく会食すること	健康によい食事のとり方	食事と安全・衛生	食事環境の整備、環境・自然に配慮	食事と文化、地場産物への理解	勤労・協力と感謝
学校給食の目標	適切な栄養の摂取による健康の保持増進		◎ ○				
	健全な食生活を営むことができる判断力と望ましい食習慣の養成		◎ ○	◎	◎		
	学校生活を豊かにし、明るい社交性・協同の精神の養成	◎					◎
	生命及び自然を尊重する精神・環境の保全に寄与する態度の養成					◎	◎
	勤労を重んずる態度の養成						◎
	我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深める	○				◎	
	食料の生産、流通及び消費について正しい理解に導く				○	○	◎ ○
食に関する指導の目標	食事の重要性	◎	○				
	心身の健康		◎	◎			
	食品を選択する能力		◎	◎		○	
	感謝の心	◎				○	◎
	社会性	◎		◎	◎		◎
	食文化	◎				◎	◎

◎：給食指導を通して身に付けることができる項目

○：給食の時間の食に関する指導と関連する項目

### 3 給食の時間の年間指導計画の作成

#### (1) 年間指導計画作成の考え方

- ア 学校の教育目標との関連を図りながら、給食指導のねらいを明確にする。
- イ 学校給食の年間献立計画と連携して作成する。栄養教諭・学校栄養職員が在籍しない学校においても年間献立計画と連携を図るために、献立作成委員会や給食主任者会などの利用を考えた体制を確立しておく。
- ウ 教科等と連携を図りながら、学校給食の指導の効果を高められるものにする。
- エ 給食の時間は、学校の実態に即して適切に定めることが必要であり、指導の充実を図るため、食後の時間が十分確保できるようにする。
  - (7) 給食の時間は、小学校では50分、中学校では45分以上が望ましい。
    - 会食の時間を小学校では25分、中学校では20分以上確保できるよう配慮する。
  - (イ) 教育活動を活発にするため、児童生徒の意見を反映させる。
  - (ウ) 生活指導や生徒指導の場としても活用する。
  - (エ) 給食後の休憩時間（昼の放課）は、少なくとも15分は確保できるようにする。
- オ 学年、学校及び地域社会の実情に配慮して、きめ細かく作成する。
  - (7) 学年の実情
    - a 小学校低学年
      - 学級への所属感を高めるために、他の児童や学級担任との交流を促すよう配慮する。
    - b 小学校中学年
      - 給食の時間の活動に積極的に参加し、集団の秩序・規律や活動の方法を自分たちでつくり上げることができるよう配慮する。
    - c 小学校高学年
      - 児童の自主性を尊重し、多様で自主的な給食活動が展開できるよう配慮する。
    - d 中学校
      - 生徒の自主性の伸長が図られ、好ましい人間関係を自ら育成する態度が養成されるよう配慮する。
  - (イ) 学校の実情
    - a 児童生徒数、学級数、教員数とその組織
    - b 校舎の配置や調理場の位置とその広さ
    - c リフトや運搬の施設、設備、手洗い場の位置や大きさ、数
    - d 食べる場所（教室、ランチルーム、特別教室等）や会食する人（級友、交流学級、通学団等）
  - (ウ) 地域社会の実情
    - a 児童生徒の家庭における食品摂取状況、朝食、間食、夕食等
    - b 地域社会の保健衛生状況、地域的な疾患等
    - c 地域社会の生産と消費、職業構成、経済状況、労働状況等
    - d aからcの実情と児童生徒の健康、発育、嗜好との相関関係
- カ 委員会活動の計画とも関連させ、児童生徒が主体的に活動することができるよう配慮する。
- キ 食事環境に変化と潤いをもたせ、幅広く児童生徒の交流を図るよう配慮する。

(7) 行事給食の例

おめでとう会食—入学、誕生日、卒業  
ありがとう会食—給食感謝の会、地域ボランティアの方への感謝の会

(イ) 交流給食の例

なかよし会食—交流学級の会食  
招待給食—校内の教職員や地域の方の招待

(ウ) その他の例

あおぞら給食—室外での給食

ク 指導に役立つもので、実施学年や学級等の創意工夫を活かせるような弾力性のあるものとする。

ケ 全教職員が給食指導に対して、正しい理解と関心をもち、積極的に指導にあたりとともに、衛生、栄養、献立等について自ら研修を深める。

コ 食と健康に関わるすべての活動の関連性を明確にするため、計画の項目は、月目標、指導事項・留意点、行事、教科等、委員会活動、PTA活動、給食だより等とする。

サ 計画、内容、成果等、指導の結果を評価し、改善する。

(2) 給食の時間の年間指導事項・留意点

ア 小学校（例）

月	目標	学年	指導事項	指導の留意点
4	準備や後片付けをきちんとしよう	低学年	①給食当番・係の仕事や役割 ②安全な運搬 ③配食・後片付けの手順	・入学当初は、特別に時間を設定し指導する。 ・重い物、熱い物は教職員も一緒に運ぶ。 ・食べ残しは決まった容器に入れ、食器は種類別にまとめさせる。
		中学年	①給食当番・係の仕事や役割 ②安全な運搬 ③配食・後片付けの手順	・給食当番、係の仕事や分担をはっきりする。 ・配膳、配食の順序を工夫させる。 ・熱い物は特に気を付けさせる。 ・こぼした物の後片付けをきちんとさせる。
		高学年	①給食当番・係の自主的な活動 ②準備・後片付けの協力	・安全に配慮した能率的な配膳の仕方を工夫する。 ・グループごとにごみ入れなどを工夫して作る。 ・食器などは、丁寧に扱うようにする。
5	食事のきまりを知ろう	低学年	①食器の置き方 ②はし・スプーンの持ち方 ③よい姿勢	・食器の置き方を確認する。 ・はし、スプーンの持ち方を確認し合う。 ・机といすの間を適度に空けて座る。
		中学年	①食器の持ち方 ②はし・スプーンの持ち方 ③よい姿勢	・食器に手を添えて食べるようにする。 ・はし、スプーンの持ち方を確認し合う。 ・背筋を伸ばして座る。
		高学年	①正しい配膳 ②はし・スプーンの持ち方 ③よい姿勢	・正しいはしの持ち方を確認する。 ・飯わんや汁わんは、ふちに親指を添え、ほかの指はそろえて底にあてる。 ・ひじをつかず、足は床にそろえてつける。

月	目標	学年	指導事項	指導の留意点
6	よくかんで食べよう	低学年	①手早い準備 ②よくかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>手早い準備を心がける。</li> <li>よくかむことを意識する。</li> </ul>
		中学年	①手早い準備 ②よくかむ ③食べる速さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>手早い準備を心がけ、会食時間を確保する。</li> <li>口に入れる量を加減し、よくかむ。</li> <li>時間内に食べられる速度で食べる。</li> </ul>
		高学年	①準備の協力 ②よくかむ ③適度な速さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力して手早い準備をし、会食時間を確保する。</li> <li>よくかむことを意識し、味わって食べる。</li> <li>ほどよい速度で、味わって食べる。</li> </ul>
7	身の回りをきれいにして食事をしよう	低学年	①手洗いの方法 ②机の整頓	<ul style="list-style-type: none"> <li>はなかみ、用便等は手洗い前に済ませる。</li> <li>手洗いの方法を覚える。</li> <li>机の上を整頓し、筆箱等学習用具は片付ける。</li> </ul>
		中学年	①手洗いの方法 ②清潔な身支度 ③食卓の整理整頓	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの片付け、手洗いを習慣化する。</li> <li>机の上を整頓し、筆箱等学習用具は片付ける。</li> <li>給食用具（エプロン、ナフキン等）の整理をする。</li> </ul>
		高学年	①衛生的な手洗いの方法 ②清潔な身支度 ③食卓の整理整頓	<ul style="list-style-type: none"> <li>食前の衛生的な手洗いの習慣を身に付ける。</li> <li>机の上を整頓し、筆箱等学習用具は片付ける。</li> <li>給食用具（エプロン、ナフキン等）を進んで整理をする。</li> </ul>
9	みんなで協力して楽しい食事をしよう	低学年	①準備の協力 ②楽しい食卓づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食当番、係活動の仕事や役割分担を確認する。</li> <li>グループ内で仕事を分担し、協力する。</li> </ul>
		中学年	①準備・後片付けの協力 ②食事にふさわしい話題	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備や後片付けを手際よくする仕方を考える。</li> <li>食事にふさわしい話題を選ぶ。</li> <li>他のグループの様子も参考にする。</li> </ul>
		高学年	①仕事の分担 ②能率のよい準備・後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>食卓づくりの報告会などを開き、他のグループの工夫を知らせる。</li> <li>食事にふさわしいマナーを身に付ける。</li> </ul>
10	好き嫌いなく食べよう	低学年	①偏食 ②自分に合った量	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手な物も少しずつ食べるようにする。</li> <li>個人差に応じて量を加減し、自分の適正量を覚える。</li> </ul>
		中学年	①決められた時間内での食事 ②偏食と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を考えながら食べる。</li> <li>少しでも食べるようにする。</li> <li>体のことを考えて、好き嫌いせず、何でも食べるようにする。</li> </ul>
		高学年	①必要な栄養と食事量	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養を考えて、残さないで食べることができるよう、自分なりの目標を立てて努力する。</li> <li>調和のとれた食事をすることの大切さを理解する。</li> </ul>

月	目標	学年	指導事項	指導の留意点
11	働く人に感謝して食べよう	低学年	①働く人への感謝 ②後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>感謝の心をこめてあいさつをする。</li> <li>給食を作ってくれた人に感謝しながら食べる。</li> <li>食器に食べ物を残しておかないように、後片付けをする。</li> </ul>
		中学年	①働く人への感謝 ②配慮のある後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物を粗末にしない食べ方を身に付ける。</li> <li>給食を作ってくれた人に感謝しながら食べる。</li> <li>調理員さんが仕事をしやすいように片付ける。</li> </ul>
		高学年	①働く人への感謝 ②感謝の表し方 ③配慮のある後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物を作る人の苦労や努力に感謝する。</li> <li>調理員さんたちに感謝の気持ちをもつ。(手紙、作文等)</li> <li>調理員さんが仕事をしやすいように片付ける。</li> </ul>
12	きれいに手を洗おう	低学年	①手洗い ②教室の換気 ③給食当番の健康観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧に手洗いをし、専用のハンカチでふく。</li> <li>給食の前に、教室の換気をする。</li> <li>給食当番の健康観察を徹底し、体調不良の際は交代する等の配慮をする。</li> </ul>
		中学年	①丁寧な手洗い ②教室の換気 ③給食当番の健康観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧に手洗いをし、専用のハンカチでふく。</li> <li>給食の前に、教室の換気をする。</li> <li>給食当番の健康観察を徹底し、体調不良の際は交代する等の配慮をする。</li> </ul>
		高学年	①衛生的な手洗い ②環境整備と換気 ③給食当番の健康観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧に手洗いをし、専用のハンカチでふく。</li> <li>給食の前に手際よく教室の整理整頓を行い、換気をする。</li> <li>給食当番の健康観察を徹底し、体調不良の際は交代する等の配慮をする。</li> </ul>
1	食べ物に感謝して食べよう	低学年	①食べ物への感謝 ②食事のあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物は植物や動物の命からできていることに気付き、感謝して食べる。</li> <li>「いただきます」「ごちそうさま」を、心をこめて言う。</li> </ul>
		中学年	①食物や自然の恵みへの感謝 ②食事のあいさつ ③学校給食の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物は自然の恵みである、植物や動物の命からできていることに気付き、残さないように食べる。</li> <li>学校給食の歴史を知り、感謝の気持ちをこめて食事のあいさつをする。</li> </ul>
		高学年	①食物や自然の恵みへの感謝 ②学校給食の歴史 ③食料事情	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の恵みに感謝し、残さないように食べる。</li> <li>学校給食の歴史や、食料自給率、世界の食料事情に思いをはせ、心をこめて食事のあいさつをする。</li> </ul>
2	マナーを守って楽しく食べよう	低学年	①食事の姿勢 ②食事のマナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>後ろを向いたり、ひじをついたり、いすの片足に重心をかけたりしないようにする。</li> <li>食事の場にあった声の大ききで話す。</li> </ul>
		中学年	①落ち着いた食事 ②食事のマナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢を正して口を閉じ、よくかむようにする。</li> <li>食器や牛乳びんの取り扱いに注意し、食べ物をこぼさないようにする。</li> <li>時には教師が話題を提供しながら和やかに話す。</li> </ul>
		高学年	①落ち着いた食事 ②気持ちよい食事マナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>早食いににならないように、落ち着いて食べる。</li> <li>食事にあった話題で声の大ききに気を付けて話す。</li> <li>校内放送を静かに聞くようにする。</li> </ul>

月	目標	学年	指導事項	指導の留意点
3	一年間の給食を振り返ろう	低学年	楽しく食事ができたかの反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい食事ができるために、自分がんばったことやこれから気を付けること等を反省する。</li> <li>・個人差に応じた評価がされるよう配慮する。</li> </ul>
		中学年	給食時間の係活動や楽しい食事ができたかの反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食についてのきまりや係の仕事について、自主的によくできたか話し合う。</li> <li>・学級全体として給食の反省ができるように、時間設定を考える。</li> </ul>
		高学年	楽しい食事に向けて、自主的、協力的に活動できたかの反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の食事マナーを身に付け、自主的に楽しい給食ができたか反省する。</li> <li>・学級活動の時間を利用して、一年間の反省をまとめる。</li> </ul>

### イ 中学校（例）

月	目標	指導事項	学年	指導の留意点
4	楽しい給食の場をつくろう	①みんなで組織をつくる。 ②楽しい食事の場をつくる。 ③協力して準備する。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の意義を理解し、それぞれの生徒が責任を果たすことのできる組織をつくる。</li> <li>・楽しい食事の場づくりをする。(環境、グループづくり、仕事の分担、協力)</li> <li>・望ましい給食の準備の仕方を身に付ける。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の意義を再認識させ、進んで取り組める組織をつくる。</li> <li>・楽しい食事の場づくりをする。(環境、グループづくり、仕事の分担、協力)</li> <li>・能率的な給食の準備について話し合い、実践する。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の意義を深め、能率的に活動できる組織をつくる。</li> <li>・食事の望ましい雰囲気について理解し、実践の方法を工夫する。</li> <li>・能率的な給食の準備について話し合い、実践する。</li> </ul>
5	食事のきまりを身に付けよう	①衛生的な食事の準備について点検する。 ②食事の基本的習慣を身に付ける。 ③落ち着いた給食時間にする。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い方法、配食、当番の服装などを点検し合う。</li> <li>・食事の基本的習慣を身に付ける。(あいさつ、姿勢、はしの持ち方、食べ方、後片付け)</li> <li>・食事の場にふさわしい声の大きさで会話する。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い方法、配食、当番の服装などを点検し合う。</li> <li>・食事の基本的習慣を身に付ける。(あいさつ、姿勢、はしの持ち方、食べ方、後片付け)</li> <li>・気持ちのよい話題を選び、和やかに会話する。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食時の清潔さが習慣化されているか反省する。</li> <li>・上手にはしが扱えるようにする。</li> <li>・望ましい食事の習慣について再認識する。</li> <li>・テーマを決めた話題にする等、落ち着いた楽しい給食時間になるよう、学級で協力して取り組む。</li> </ul>

月	目標	指導事項	学年	指導の留意点
6	よくかんで食べよう	①う歯やその予防について知る。 ②かむことの効用について考える。 ③よくかんで食べる。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の大切さと、う歯の原因を理解し、その予防に取り組む。</li> <li>・かむことの効用「ひみこのはがい〜ぜ（肥満防止、味覚の発達、言葉の発音、脳の発達、歯の病気予防、がん予防、胃腸快調、全力投球）」を知り、よくかんで食べる。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の大切さと、う歯の原因を理解し、その予防に取り組む。</li> <li>・かむことの効用を理解し、意識してよくかんで食べる。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の大切さと、う歯の原因を理解し、その予防に取り組む。</li> <li>・かむことの効用を理解し、自分の健康管理のためによくかんで食べることを習慣化する。</li> </ul>
7	環境を整えて食事をしよう	①衛生を意識した身支度をする。 ②食事にふさわしい環境の整備をする。 ③美しい環境で楽しく食事をする。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的な身支度や手洗い方法を確認し合う。</li> <li>・教室内の整理整頓に心がけ、換気をして教室環境を整える。</li> <li>・教科書、ノート、筆箱等、学習用具を整頓し、清潔で美しい食卓づくりに全員が協力する。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的な身支度や手洗い方法を身に付け、進んで実践する。</li> <li>・教室内の整理整頓を常に心がけ、効率的な換気方法を話し合い、教室環境を整える。</li> <li>・清潔な環境づくりが楽しい会食につながることを理解し、実践する。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的な身支度や手洗い方法を実践し続けることで、習慣化させる。</li> <li>・教室内の整理整頓を常に心がけ、効率的な換気を行うことで、気持ちのよい環境にする。</li> <li>・楽しい雰囲気では食事が、自分たちの心を豊かにすることを自覚する。</li> </ul>
9	ふれあいを深め和やかな給食時間にしよう	①食事中的話題に気を付ける。 ②給食中の学校放送を静かに聞く。 ③共に食事をする事で親睦を図る。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事中的よい雰囲気づくりには、場にふさわしい話題を選ぶことの大切さを知る。</li> <li>・静かに放送を聞く習慣を身に付ける。</li> <li>・グループづくりを工夫して和やかな食事にする。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事中的にふさわしい話題を選び、楽しい雰囲気では食事ができるようにする。</li> <li>・放送を聞く時間と会話の時間とを区別する。</li> <li>・食後の時間を親睦のために有効に使う。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく会話しながら食事をする習慣を身に付ける。</li> <li>・給食時の学校放送で改善すべき点を検討する。</li> <li>・自主的な行事計画を立て、会食時間に合った学級内の親睦を深める。</li> </ul>

月	目標	指導事項	学年	指導の留意点
10	偏食をなくしバランスよく食べよう	①偏食の原因をつかむ。 ②栄養面に配慮し偏食をなくす努力をする。 ③食べ残しをなくす。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好み偏っていないかを考える。</li> <li>偏食があると成長期に必要な食事摂取基準が満たされないことを知る。</li> <li>給食の献立が成長期の食事摂取基準を満たしていることを知り、残さないようにする。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>偏食の原因をつかみ、なくすように努力する。</li> <li>偏食による病気や異常について知り、積極的に偏食をなくす気持ちをもつ。</li> <li>残すと栄養が偏ることを理解して、自己の適量を知り、配膳を工夫する。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養が偏らないように配慮する。</li> <li>栄養の自己管理ができるようにする。</li> <li>給食に関係する人々に配慮し、食べ残しが出ないよう積極的に努力する。</li> </ul>
11	働く人に感謝し態度や行動に表そう	①給食ができるまでを知る。 ②食前、食後のあいさつをする。 ③係に協力する。 ④食事ができることに感謝する。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食が、国や地方の多くの人々の努力によって行われていることを知る。</li> <li>食前、食後のあいさつの必要性を知る。</li> <li>給食当番に感謝し、協力する気持ちをもつ。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食に従事する人々の仕事を理解し、その努力に気付く。</li> <li>気持ちをこめて食事のあいさつをする。</li> <li>食前、会食、食後の活動に進んで協力する。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食に従事する人々の苦労を考えて、常に感謝の気持ちをもって取り組むようにする。</li> <li>自発的に食前、食後のあいさつができる。</li> <li>感謝と奉仕の気持ちを給食の場で行動に表すにはどうしたらよいかを考え、実践する。</li> </ul>
12	衛生に配慮した準備をしよう	①衛生的な給食準備の習慣を身に付ける。 ②食中毒について知る。 ③健康観察の重要性を理解し、協力する。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食前の手洗い、配膳台の消毒等が衛生的に行われているかを確認する。</li> <li>冬にも多い食中毒の特徴と、その予防法について知る。</li> <li>給食当番の健康観察の重要性を理解し、健康観察の徹底とその対策について話し合う。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食前の手洗い、配膳台の消毒等を衛生的に行うことの意義を理解し、実行する。</li> <li>冬にも多い食中毒の特徴を理解し、係や当番活動を衛生的に行うにはどうしたらよいか話し合う。</li> <li>給食当番の健康観察の重要性を理解し、体調不良者に対する配置替えなどに学級全体が協力する。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生面に配慮した給食前の手洗いや身支度等を手際よく実施できる習慣を身に付ける。</li> <li>冬にも多い食中毒の特徴を理解し、係や当番活動を衛生的に行うため、積極的に協力する。</li> <li>健康観察の重要性を理解し、日頃から体調管理に気を付ける。</li> </ul>

月	目標	指導事項	学年	指導の留意点
1	自然の恩恵に感謝して食べよう	①学校給食の歴史や給食週間について知る。 ②食品の生産、流通、調理についての知識を深める。 ③国内外の食料事情について考える。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食週間に、学校給食の歴史、意義を知る。</li> <li>食物が自然の恵みであることを再確認し、口に入るには社会の恩恵も受けていることを理解する。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食週間に、学校給食の歴史、意義を知る。</li> <li>食品の生産、流通、調理には、自然の恩恵と多くの人々の努力があることを理解する。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食週間に、学校給食の歴史、意義を知る。</li> <li>日本人の食生活について考える。</li> <li>世界の食料事情から、食べられることへの感謝や持続可能な社会について考える。</li> </ul>
2	望ましい食事のマナーを身に付けよう	①正しい姿勢で食べる。 ②食事のマナーを身に付ける。 ③食器の取り扱いを正しくする。 ④食後の休養の意義を考える。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事中の望ましい姿勢について知る。</li> <li>食事のマナーが楽しい食事につながることを知る。</li> <li>はし、スプーンの上手な使い方を理解し、音をたてないで食事ができるようにする。</li> <li>食後の休養が必要なことを知り、実践する。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事中の姿勢と食物の消化について理解する。</li> <li>食事のマナーを身に付け、和やかな食事時間がもてるようにする。</li> <li>後片付けの仕方を、正しく能率的に行う。</li> <li>食後の休養と食物の消化と関係があることを知る。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢に留意して食べようとする意識を高める。</li> <li>食事のマナーに従い、和やかで楽しい食事ができるようにする。</li> <li>器を持って食事をする和食のマナーを知り、食文化について理解を深める。</li> <li>十分な休養をとって食事時間をゆとりあるものにする。</li> </ul>
3	1年を振り返り健康と栄養について考えよう	①自分の食生活について振り返る。 ②食生活と健康の関わりについて考える。 ③健康的な生活を送るために必要な食習慣を身に付ける。	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましい食生活は健康の源であることを知る。</li> <li>成長期に必要な栄養について理解する。</li> <li>自分の食生活について振り返り、よりよくするにはどうしたらよいかを考える。</li> </ul>
			2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましい食生活は健康の源であることを理解する。</li> <li>偏食の原因を調べ、改善するために努力する。</li> <li>自分の食生活について振り返り、よりよくするにはどうしたらよいかを話し合い、実践のための目標を立てる。</li> </ul>
			3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>偏食の害を知り、食べやすい方法を考える。</li> <li>食事摂取基準は年齢、性別、運動量によって異なることを知る。</li> <li>自分の食生活について振り返り、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な食習慣を身に付けるように努力する。</li> </ul>

#### 4 給食指導の留意点

給食の時間は準備、会食、後片付けに区分され、小学校は50分、中学校は45分以上を設定することが望ましい。給食の時間確保のために、4時間目の授業が延長することがないようにし、給食の時間後は15分程度の休憩がとれるような配慮が必要である。食事時間は、生活のリズムを整える役割としても重要であるため、行事等で大幅に開始時刻が変わることがないようにする。

区分	小学校	中学校	指導の重点
準備	15分	15分	手洗い、配膳の合理的な運営を図り、時間内で準備する。また、清潔で明るい環境を整える。
会食	25分	20分	会食にゆとりをもたせ、楽しい雰囲気の中で食事ができるようにする。また、和やかな雰囲気の中で評価等を行う。
後片付け	10分	10分	後片付けが確実にできるようにする。

##### (1) 準備

- ア ワゴン車の有無や配膳の方法、学級の人数等に応じて適切な方法により、協力して効率よく行わせること。
- イ 給食当番の児童生徒には、学級の仲間のことを思い衛生的でおいしそうな盛り付け等を考えさせること。
- ウ 給食当番以外の児童生徒には、手洗い場を当番に優先して使わせたり、グループ作りを行ったりするなど、当番がスムーズに配膳できるように協力することの重要性を考えさせること。
- エ 児童生徒一人一人が自主的に責任をもって活動できることを重視しつつ、一人分の分量を的確に配膳しているか、盛り残しなく配膳できているか、衛生的に配膳しているか、協力して配膳しているかなどについて支援すること。

##### (2) 会食

- ア 健康な体づくりのためにはよく噛んで味わって食べることが重要であり、また、会食は仲間と楽しい時間を過ごし緊張から解放され気分転換を図る時間でもあるため、ゆとりある時間を確保すること。
- イ 食事に関わりのないテレビ放送や授業の補習を行わないなどの配慮をすること。
- ウ 学級担任は、各グループを1日ずつ回って、明るい雰囲気の中で会食ができるように積極的に話しかけ、児童生徒との会話を楽しみコミュニケーションを図る等、積極的に関わること。
- エ きたない話や気持ちの悪くなる話など会食の場にふさわしくない会話をしていないかに配慮すること。
- オ 給食にマイナスのイメージを与えるような言葉は避け、気持ちよく会食できるような言葉がけをすること。

##### (3) 後片付け

- ア みんなで協力して安全かつ効率的に行うこと。
- イ 食べ終わって自分だけすぐに片付けてしまうということがないように、片付け始める時間

を決めておくこと。

- ウ 食器を返却する際は音をたてないように丁寧に扱うこと。
- エ 食器にご飯粒の食べ残しがないか、ごみはきちんとまとめられているかなど、マナー面にも配慮し、感謝の気持ちをもって片付けができるようにすること。

## 5 学校給食を活用した食に関する指導の留意点

### (1) 食品の産地や栄養的な特徴等の学習

- ア 児童生徒の発達段階や実態に合わせて、献立や料理、食品についての情報を効果的に指導に活用すること。
- イ 献立一口メモのように、食に関する指導の情報をまとめたものを各学級に配布し、委員会活動として委員から伝えたり、学級の係活動にしたり、担任が伝えたりするほか、給食の時間の放送で知らせたり、掲示物にするなど活用すること。
- ウ 料理する前の食品を見せたり、生産者や生産している様子を写真やビデオなどで知らせたり、生産者等から直接話を聞くなどの工夫をすること。

#### 【献立を活用した食に関する指導の例】



#### 献立

ごはん  
めひかりのから揚げ  
れんこんサラダ  
冬野菜たっぷりのみそ汁  
みかんゼリー  
牛乳

料理・食品	料理や食品についての情報
ごはん	愛知県でとれた米で、「あいちのかおり」という品種である。 米つぶが大きくよくすきとおりで、味がよい米である。 愛知県で開発された米で、病気に強く農薬の使用を減らすように改良された。 愛知県で最も多く作られている。 10月の始めから終わりにかけて収穫される。 今日のごはんは今年とれた新米である。 ごはんは、おもにエネルギーのもとになる食品で、炭水化物を多く含む。
めひかり	愛知県の三河湾でとれた魚である。 冬から春にかけてとれる。 骨まで食べられるからカルシウムがたくさんとれる。
れんこん	愛知県の愛西市でとれたものである。 蓮の花の地下にある茎で、土の中で育つ野菜である。 寒い季節に収穫するので、農家の人は大変である。 穴があいているので見通しがきくといって縁起がよいとされておせち料理にも使われる。 食物繊維が多く含まれているので、腸の調子を整えてくれる。
豆みそ	みそ汁に使われているみそは、豆みそといって大豆だけで作られているみそである。 豆みそは、日本の中で愛知県・岐阜県・三重県だけで作られている。
みかんゼリー	たくさんとれたみかんをむだにしないようにおいしいゼリーに加工した。 ゼリーに加工すると、年間を通してみかんが味わえる。

## (2) 教科等での学習と給食の時間

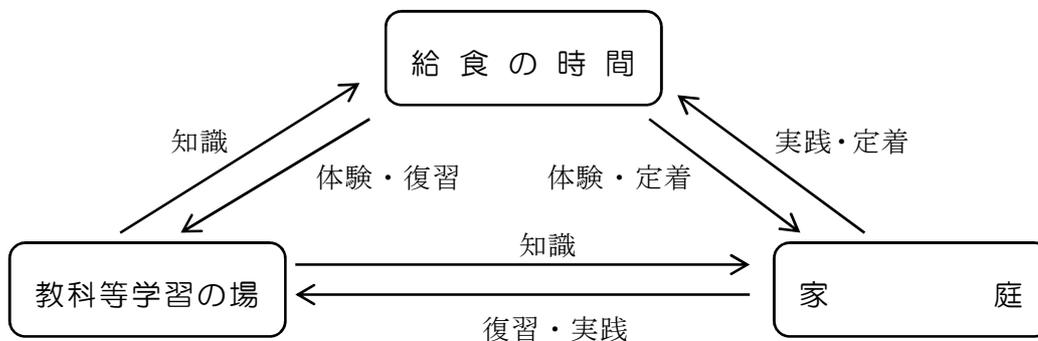
### ア 食に関する指導の流れ

その日に食べる給食や前日に食べた給食を教材として各教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの授業に組み入れることで具体的で身近な授業を展開することができ、児童生徒の興味・関心、意欲を引き出すことができる。

給食の時間の体験が教科等の学習に生かされ、教科等で得た知識を給食の時間にフィードバックさせつつ、食べるという体験を通して、実践につながるよう配慮したり、学習の内容を家庭に知らせ、家庭において定着化を図ることが望まれる。

- ① 各教科等における個々の学習を、給食の時間を中心として互いに関連付けて指導する。
- ② 各教科等に関連のある食品や学習内容を給食の献立に組み入れる。
- ③ 各教科等で学習した内容と給食の時間での指導との関連付けを図る。
- ④ 給食の時間に体験したことを、家庭生活に生かす。

これを図式化すると次のようになる。



### イ 小学校での指導（例）

学年	給食の時間	教科等での学習	家庭との連携								
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○苦手な食べ物でも一口は食べてみようとする意欲をもつ。</li> <li>○周りの児童と楽しく食べる。</li> <li>○正しいはしの使い方が分かる。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>生活</td> <td>・がっこうたんけん</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>・すきなものなあに ・おおきなかぶ</td> </tr> <tr> <td>道徳</td> <td>・げんきなこ ・ありがとう</td> </tr> <tr> <td>学級活動</td> <td>・すききらいしないでなんでもたべよう</td> </tr> </table>	生活	・がっこうたんけん	国語	・すきなものなあに ・おおきなかぶ	道徳	・げんきなこ ・ありがとう	学級活動	・すききらいしないでなんでもたべよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の準備や片付けを手伝う習慣を身に付ける。</li> <li>・正しいはしの使い方が分かる。</li> </ul>
生活	・がっこうたんけん										
国語	・すきなものなあに ・おおきなかぶ										
道徳	・げんきなこ ・ありがとう										
学級活動	・すききらいしないでなんでもたべよう										
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○給食に使われている野菜の名前やはたらきを知る。</li> <li>○好き嫌いをなく食べようとする。</li> <li>○食器を正しく並べる。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>生活</td> <td>・ぐんぐんそだてみんなのやさい</td> </tr> <tr> <td>道徳</td> <td>・さやかさんのおにぎりづくり</td> </tr> <tr> <td>学級活動</td> <td>・パワーアップサラダをつくって食べてげんきもりもり</td> </tr> </table>	生活	・ぐんぐんそだてみんなのやさい	道徳	・さやかさんのおにぎりづくり	学級活動	・パワーアップサラダをつくって食べてげんきもりもり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培した野菜を家庭に持ち帰り、調理して食べる。</li> <li>・食器を正しく並べる。</li> </ul>		
生活	・ぐんぐんそだてみんなのやさい										
道徳	・さやかさんのおにぎりづくり										
学級活動	・パワーアップサラダをつくって食べてげんきもりもり										
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大豆からできている食べものを知る。</li> <li>○よくかんで食べる。</li> <li>○3回の食事を規則正しく食べることの大切さが分かる。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>・すがたをかえる大豆</td> </tr> <tr> <td>体育（保健）</td> <td>・毎日の生活と健康</td> </tr> <tr> <td>学級活動</td> <td>・朝ごはんを食べよう ・食べ物の仲間を考えて給食を食べよう</td> </tr> </table>	国語	・すがたをかえる大豆	体育（保健）	・毎日の生活と健康	学級活動	・朝ごはんを食べよう ・食べ物の仲間を考えて給食を食べよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一週間の生活リズムを調べ、自分の生活を振り返り朝食をしっかり食べる。</li> </ul>		
国語	・すがたをかえる大豆										
体育（保健）	・毎日の生活と健康										
学級活動	・朝ごはんを食べよう ・食べ物の仲間を考えて給食を食べよう										

学年	給食の時間	教科等での学習		家庭との連携
4	○地域で生産されている野菜や水産物、愛知県の産物を知る。 ○給食に使われている食品の産地に興味関心をもつ。	社会	・はたらく人とわたしたちの暮らし	・地場産物の活用や「いいともあいち運動」を知って、生活に活かす。
		総合的な学習の時間	・地域に伝わる「ふるさとの味」	
		道徳	・ミカンのおか	
5	○大豆の栄養を知り、残さず食べる。 ○みそを通して、伝統的な食文化に興味関心をもつ。	社会	・これからの食料生産とわたしたち	・家族のためにみそ汁を作る機会をつくる。 ・朝食で野菜を食べることの大切さを理解し、習慣化する。
		家庭	・おいしいね毎日の食事	
		総合的な学習の時間	・豆豆大作戦	
		学級活動	・自分たちが作ったみそを味わう会をしよう	
6	○日本型食生活について理解を深める。 ○自分に必要な給食の量を知って食べる。	社会	・縄文のむらから古墳のくにへ ・世界の中の日本	・休みの日に家族と一緒に食事をつくったり、家族のために一人で食事をつくったりする。
		体育（保健）	・病気の予防	
		家庭	・まかせてね今日の食事	
		道徳	・おばあちゃんのさがしもの	
		学級活動	・健康に良い食事のとり方を考えよう ・家族がよるこぶ食事をつくろう	

#### ウ 中学校での指導（例）

学年	給食の時間	教科等での学習		家庭との連携
1	○食品に含まれている栄養素や働きが分かる。 ○中学生の時期に必要な栄養素が分かる。 ○配膳の方法を工夫することができる。	技術・家庭	・中学生の栄養と食事 ・栄養素の種類と働き	○食事バランスガイドを使い、家庭での食生活を振り返る。 ○毎日規則正しく食事をとることができる。
		道徳	・いのち、ということ	
		学級活動	・成長期の食事のとり方を知ろう ・残食をなくそう ・私たちの暮らしと食生活	
2	○行事食や郷土料理、旬の食品から、地域の食文化や産業を理解する。 ○自然の恵みや生産者に感謝して食べる。	社会	・変化する日本の農業	○生産者や自然の恵みに感謝し、食品を無駄なく使って料理をすることができる。
		技術・家庭	・これからの食生活	
		学級活動	・環境にやさしい食品選びについて考えよう	
3	○自分の体に必要な栄養素や量を理解して食べる。 ○楽しい食事を通して望ましい人間関係を構築しようとする。	保健体育	・健康な生活と病気の予防	○休日の食事でも不足する栄養素がないか自分の生活を振り返り、毎日3回の食事を規則正しくとることができる。
		学級活動	・夢をかなえるための食事について考えよう ・成長期の体を考えた食事をしよう	
		委員会活動（給食）	・給食の食べ方調査から課題をみつけ、よりよい生活のための給食を啓発する。	

## 6 特別支援学校における学校給食

### (1) 特別支援学校の教育の特性

特別支援学校での教育は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的としている。

特別支援学校の教育課程においては、自立活動が指導領域として特別に設けられている。

個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う指導は、自立活動の指導を中心として行われるものであり、自立活動は、障害のある幼児児童生徒の教育において、教育課程上重要な位置付けとなっている。

### (2) 特別支援学校における学校給食の位置付け

学校給食法における「学校給食」とは、学校給食の目標を達成するために、義務教育諸学校において、その児童又は生徒に対し実施される給食であり、この法律で義務教育諸学校とは、学校教育法に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部をいう、と定義されている。このことから、特別支援学校の小学部及び中学部の学校給食の目的と目標は、小学校及び中学校と同じであるといえる。

特別支援学校の幼稚部と高等部については、「特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律」に基づいて実施されている。この法律で学校給食は、特別支援学校における教育の特殊性にかんがみ、特別支援学校の幼稚部及び高等部において学ぶ幼児及び生徒の心身の健全な発達に資し、あわせて国民の食生活の改善に寄与することを目的としている。

また、この法律において、学校給食法で規定する学校給食実施基準及び学校給食衛生管理基準を準用するとしている。

### (3) 特別支援学校における食事に関する指導

障害のある幼児児童生徒が、将来自立し、社会参加するための基盤として、望ましい食習慣を身に付け、自らの健康を管理する力や食物の安全性等を自ら判断する力などを身に付けることは極めて重要なことである。

また、障害のある幼児児童生徒にとって「食べること」とは、咀嚼や嚥下などの食べる機能を促すだけでなく、食事に関する基本動作やコミュニケーション能力、情緒面などの人間として調和的発達を促す重要な行為であると言える。

これらのことから、特別支援学校の食事に関する指導では、生命の維持や、健康状態の回復や保持、増進など、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うための教育活動としてとらえ、指導を展開していく必要がある。

なお、食事に関する指導を自立活動の時間として設定することについて、特別支援学校においては、一人一人の児童生徒について詳細な実態把握を行い、適切な指導計画を作成して指導を展開する必要があることに留意することで、食事に関する指導を自立活動の時間の指導とし

て設定し、総授業時数に含めても差し支えないとされている。

#### (4) 自立活動の視点からの学校給食を活用した食に関する指導

自立活動の視点から食に関する指導を進めるに当たっては、自立活動の内容と食に関する指導の内容との関連を明確にしておくことが必要である。実際の指導に当たっては、以下の項目の中から必要なものを選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定し、指導を展開することが大切である。

##### ア 健康の保持

###### (7) 生活のリズムや生活習慣の形成

規則正しい食事時間の習慣化や、食事内容（種類・量）などの改善を図るとともに、偏食や異食、過食、多飲、反芻、嘔吐など食行動・食習慣に関する課題の改善に取り組む。

###### (イ) 病気の状態の理解と生活管理

自分の病気の状態及び病状の改善や進行の防止に必要な食事の内容について理解し、バランスのとれた食事の仕方を学習するとともに、自分の体によい食べ方をしようとする気持ちや態度を養う。

###### (ウ) 健康状態の維持・改善

食に関する指導を通じて、食生活と健康について理解するなど、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにする。

##### イ 心理的な安定

###### (7) 情緒の安定

食欲や食事は、その時々気分や感情など心理面の要因が関与する場合もあることから、学校給食等を通して食事時の情緒の安定を図るとともに、必要に応じて給食をとる環境を工夫する。

###### (イ) 障害による学習上又は生活場の困難を改善・克服する意欲

視覚障害や肢体不自由のある児童生徒にとって、給食の時間ははしやスプーンの使い方、食器の扱いなどの食事動作を身に付け、向上させることのできる場面であり、そのことが、楽しく食事ができることにも結び付くことから、生活上の困難を児童生徒が自ら改善することができたという成就感をもてるように留意する。

##### ウ 人間関係の形成

###### (7) 他者とのかかわりの基礎

障害が重度でかつ重複している児童生徒の場合、給食の時間は教師とじっくりかかわることのできる場面であることから、食事の援助をする教師の働き掛けを受け入れたり、呼び掛けにこたえたりするなど対人関係を広げるための基礎的な学習を重視する。

###### (イ) 集団への参加の基礎

学校給食等の場面は、教師や仲間とのやりとりが生まれる状況であることから、教師や仲間を意識して視線を合わせたり、話をしたりできるようにする。また、給食の時間の配膳や下膳などの活動を通して、自分の役割を果たすことができるように基本的な行動の仕方を指導する。

## エ 環境の把握

### (7) 保有する感覚の活用

学校給食を通して、様々な食べものを食すことによって味覚や嗅覚等を刺激し、味覚、嗅覚等の感覚機能の発達を促す。

### (4) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

食材の属性や色、形、大きさ、固さ、量、味など、学校給食等を通して、日常生活に必要な認知や行動の手掛かりとなる概念の形成を図る。

## オ 身体の動き

### (7) 姿勢と運動・動作の基本的技能

学校給食を通して、咀嚼・嚥下等の食べる機能を高めるとともに、食事をとる際の姿勢保持や外界にある物に手を伸ばす、物をつかむ、つかんだ物を口に運ぶなどの上肢(手指)の運動・動作の改善及び習得を図るなど、日常生活の基本となる身体の動きを促進する。

### (4) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用

給食の時間は、毎日設定されており、実際に食事をする場面であることから、児童生徒個々の実態に応じて、使用するスプーンやフォークの柄の部分を持ちやすいように太くする、ベルトを取り付ける、食器を固定する台を用いる、食器の形状や色、素材を変える、姿勢を保持するための特別に制作した椅子を用いるなど、様々な補助用具や自助具を活用して、食事動作の改善を図る。

### (4) 日常生活に必要な基本動作

学校給食を通して、安定した座位を確保しながら、上肢を十分に動かせるようにし、食事動作の改善、習得を図る。また、運動・動作に応じて、主体的に日常生活をしていく上で必要とされる基本動作を身に付けるようにする。

## カ コミュニケーションの基礎的能力

学校給食は、食事を介して教師や仲間と楽しく交流することができる場面であることから、個々の児童生徒のコミュニケーション能力の実態に即して表情や身振り、絵や写真、言葉などを通して、教師や仲間と意思のやりとりができるようにする。

## (5) 学校給食における窒息事故の防止

給食の時間中に、幼児児童生徒が誤嚥し喉に詰まらせる事故や窒息事故が起きている。

事故を受けて安全確保の徹底のため、「障害のある幼児児童生徒の給食その他の摂食を伴う指導に当たっての安全確保の徹底について」(平成24年文部科学省通知)、「学校給食における窒息事故の防止について」(平成25年文部科学省通知)が出されている。

通知による留意点は以下のとおりである。

ア 食物の誤嚥は重大事故につながる可能性があることを改めて認識し、特に嚥下障害等食べる機能に障害のある幼児児童生徒の指導に当たっては、医師その他の専門家の診断や助言に基づき、食事の調理形態(ペースト食、刻み食、普通食等)や摂食指導の方法について、保護者と学校の関係者間で十分な検討を行うこと。調理及び指導はこれに基づくとともに、食べる機能に障害のある幼児児童生徒の指導に豊富な経験を有する教職員を含む複数の教職員で指導する等により安全確保を徹底すること。

さらに、万一の事故への対応については、あらかじめ医師その他の専門家の指導・助言を

受け、教職員間で確認し共有することが望まれること。

イ 幼児児童生徒が安全に食べることができるよう、特に以下の点に留意すること。

(7) 個々の幼児児童生徒が安全に食べることができるよう大きさ、固さ、とろみ、食材の選定等に留意し、食べやすい(誤嚥しにくい)献立と調理とすること。また、個々の幼児児童生徒の食べる機能に応じて、一日の量や食事援助の仕方を工夫すること。

(4) 個々の幼児児童生徒の障害の状態に応じて、食べやすい(誤嚥しにくい)姿勢が保持されるようにすること。

(5) 食事前、食事中及び食事後の幼児児童生徒の様子を観察し、適切かつ安全な指導を行うよう留意すること。

ウ 「学校給食実施基準の施行について」(平成21年文部科学省通知)、「食に関する指導の手引―第1次改訂版―」を参考にするなど、給食等の指導はもとより、寄宿舎における食事等についても、誤嚥の防止その他の安全確保を徹底すること。

## 7 高等学校における学校給食

### (1) 高等学校における学校給食の位置付け

高等学校については、「夜間課程を置く高等学校における学校給食に関する法律」に基づいて実施されている。この法律で夜間学校給食とは、夜間において授業を行う課程を置く高等学校において、授業日の夕食時に、当該夜間課程において行う教育を受ける生徒に対して実施される給食をいい、勤労青少年教育の重要性にかんがみ、働きながら高等学校の夜間課程において学ぶ青年の身体の健全な発達に資し、併せて国民の食生活の改善に寄与することを目的としている。

また、この法律において、学校給食法で規定する学校給食実施基準及び学校給食衛生管理基準を準用するとしている。

### (2) 学校給食の教育課程における位置付け

高等学校における学校給食について、現在主として定時制の課程において行われているが、その教育課程上の位置付けとしては、学校の指導の方針、施設・設備、生徒の実態などに応じて異なっているので、それぞれの学校の実態に即した教育活動として行われている。生徒の自発的な活動を醸成する機会として役立つことを含めて、ホームルーム活動、学校行事などの特別活動の一環として、そのいずれかの指導計画の中で実施されている場合もある。

いずれの場合であっても、食事に対する理解や望ましい食習慣を育成することに役立つばかりでなく、健康についての指導や、食事に対する自己管理の能力を育成するための重要な機会であるため、高等学校学習指導要領においては、特に、特別活動の一環として学校給食を実施する場合には、食育の観点を踏まえた適切な指導を行うこととしている。

生徒たちが心を開き、明るい雰囲気の中で、望ましい食習慣と豊かな人間関係を育成するように配慮することが大切である。

なお、学校給食を実施していない学校においては、ホームルーム活動の健康・安全に関する指導の中で、食に関する望ましい習慣の形成について、指導の充実を図ることが大切であることは言うまでもない。

### (3) 高等学校における食に関する指導

規則正しく調和のとれた食生活は、健康の保持増進の基本であり、近年の生徒等の食生活の乱れが、生活習慣病はもとより心の健康問題にも発展するなど食に起因する新たな健康課題を生起していることから、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることは極めて重要な課題となっている。

高等学校の時期は、男女ともに心身の発育・発達が著しいことから、食育の観点を踏まえ、自己の健康を管理し改善していく資質や能力の基礎を育成するため、自分の食生活を見直し、自ら改善して、生涯を通じた望ましい食習慣の形成と食事を通して望ましい人間関係や明るい社交性がはぐくまれるよう指導する必要がある。

高等学校学習指導要領総則においても、小・中学校、特別支援学校と同様に学校における食育の推進が次のように明記されている。

学校における体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

なお、高等学校学習指導要領解説総則編では、学校における食育の推進において、偏った栄養摂取などによる肥満傾向の増加など食に起因する健康課題に適切に対応するため、生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることにより、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性をはぐくんでいくための基礎が培われるよう、栄養のバランスや規則正しい食生活、食品の安全性などの指導が一層重視されなければならない。また、これら心身の健康に関する内容に加えて、自然の恩恵・勤労などへの感謝や食文化などについても教科等の内容と関連させた指導を行うことが効果的である。食に関する指導に当たっては、関係する教科等の取組を中心としつつ、地域や学校の事情に応じ栄養教諭等の専門性を有する教職員及び地域の有識者の協力を得るとともに、特別活動の一環として学校給食を実施する場合にはこれを活用するなど、適切に行うことが重要であるとしている。

また、愛知県では高校生の食育について、小中学校における食育の実践を踏まえ高校生が望ましい食生活を実践していく能力を身に付けることは、生涯にわたっての心身の健康において有意義であると考え、平成25年度には学校食育資料（高校生向け資料）を作成し配布した。